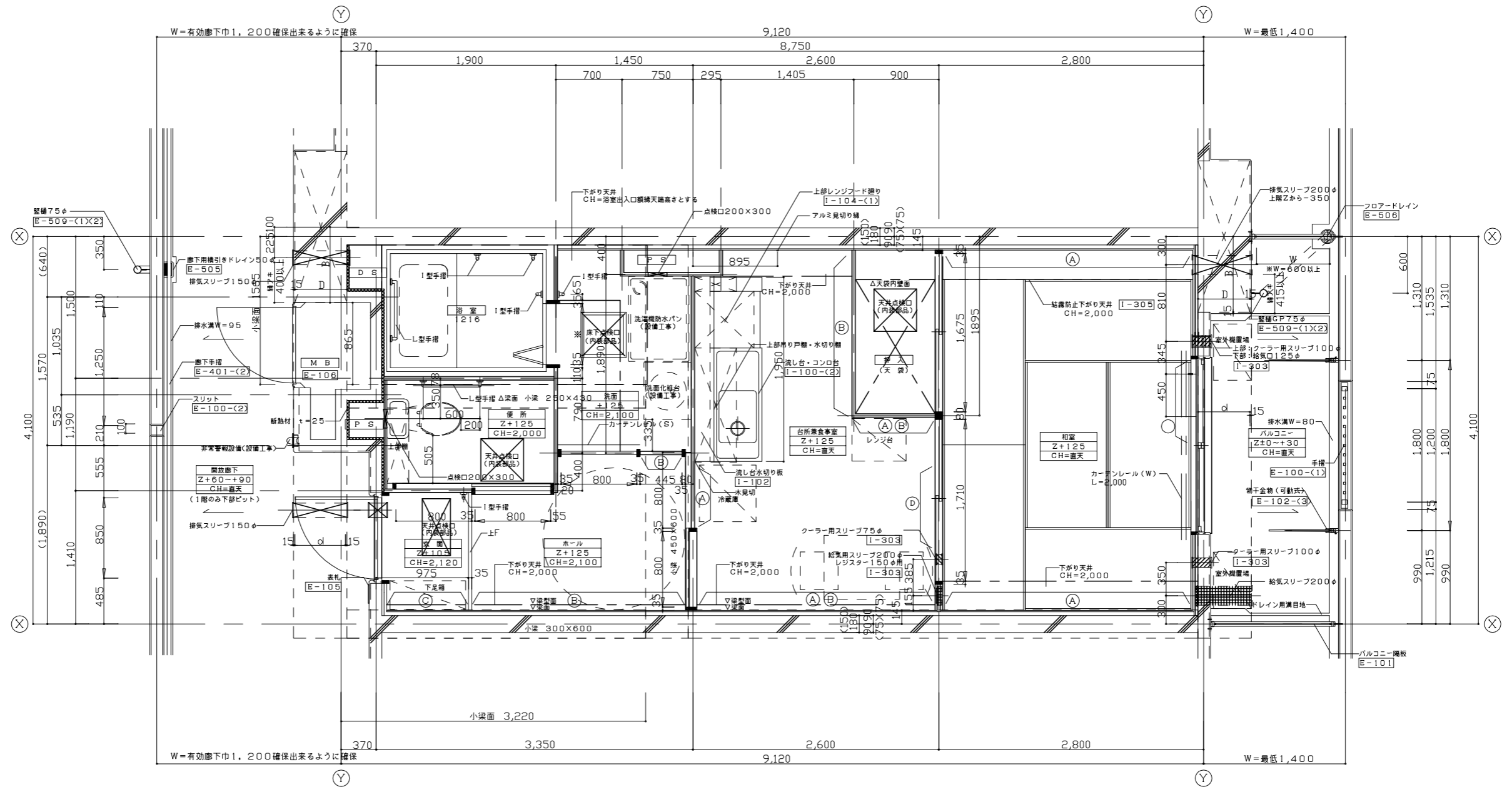


添付図8 標準平面詳細図(1DK)



凡

- ・ 排気スリーブ
- ・ 給気口
- ・ 給気スリーブ(ダクト有り)
- ・ 部分スラブ天SL-280
- ・ E-番号 大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。
- ・ I-番号 部分詳細図番号を示す。
- ・ クーラー用スリーブ
- ・ 電気スリーブ
- ・ 部分スラブ天Z+60

- (A) 転倒防止付欄干
- (B) 将来手摺下地補強
- (C) 麗高家具等転倒防止金具取付用下地補強
- (D) エアコン取付用下地補強

例

室名
床高さ(F.L.)
天井高さ

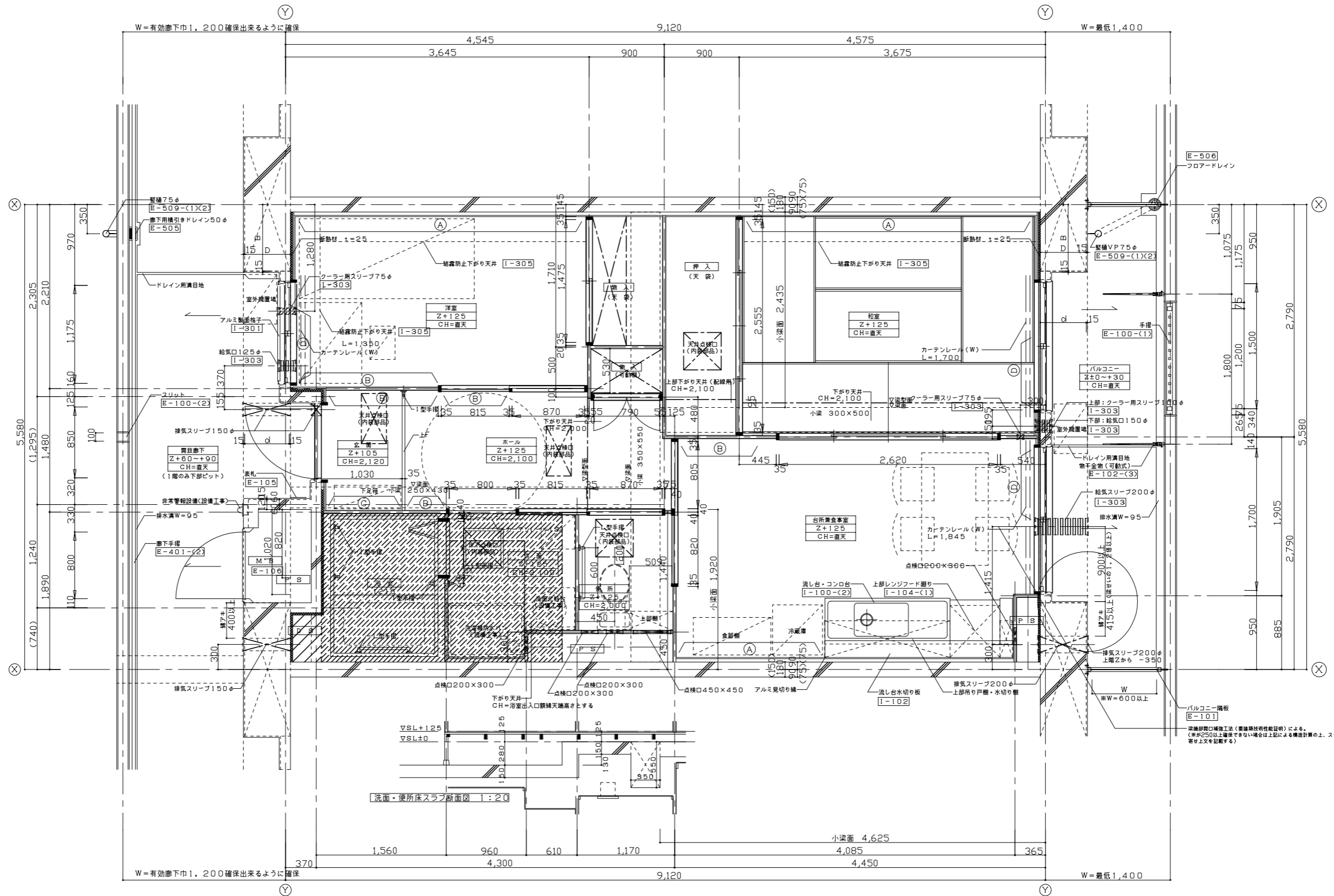
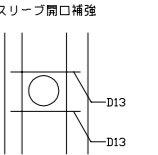
特記事項

- 1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む事。
- 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・壁端の位置については平面図参照のこと。
- 3) 特記なき限り、床下点検口は450×450、天井点検口は450×450とする(内装部品)。
- 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。< >寸法は構造による。
- 5) \*印は各メーカー仕様の寸法による。
- 6) 妻面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。

※設計上の留意事項

- ・ ( )内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
  - ・ 階高は、Zレベルから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。
  - ・ 1階一般住戸は、MAIハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
  - ・ 家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
  - ・ 排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
  - ・ パネル部分壁厚は、合板仕様の場合も40、PB仕様の場合も50(標準図は40)であるので注意すること。
- ※階高は2,750を基準とする。

添付図8 標準平面詳細図(2DK)



梁端開口補強工法(建築技術性能証明)による。  
(※が250以上確保できない場合は上記による構造計算の上、スリーブを柱に  
寄せ上文を記載する)

凡例

- 排気スリーブ
  - 給気口
  - 給気スリーブ(ダクト有り)
  - 部分スラブ天Z+280
  - E-番号 大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。
  - I-番号 部分詳細図番号を示す。
  - クーラー用スリーブ
  - 電気スリーブ
  - 部分スラブ天Z+60
- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| ● (A) 転倒防止付欄干            | ● (D) エアコン取付用下地補強 |
| ● (B) 将来手摺下地補強           |                   |
| ● (C) 麗高家具等転倒防止金具取付用下地補強 |                   |

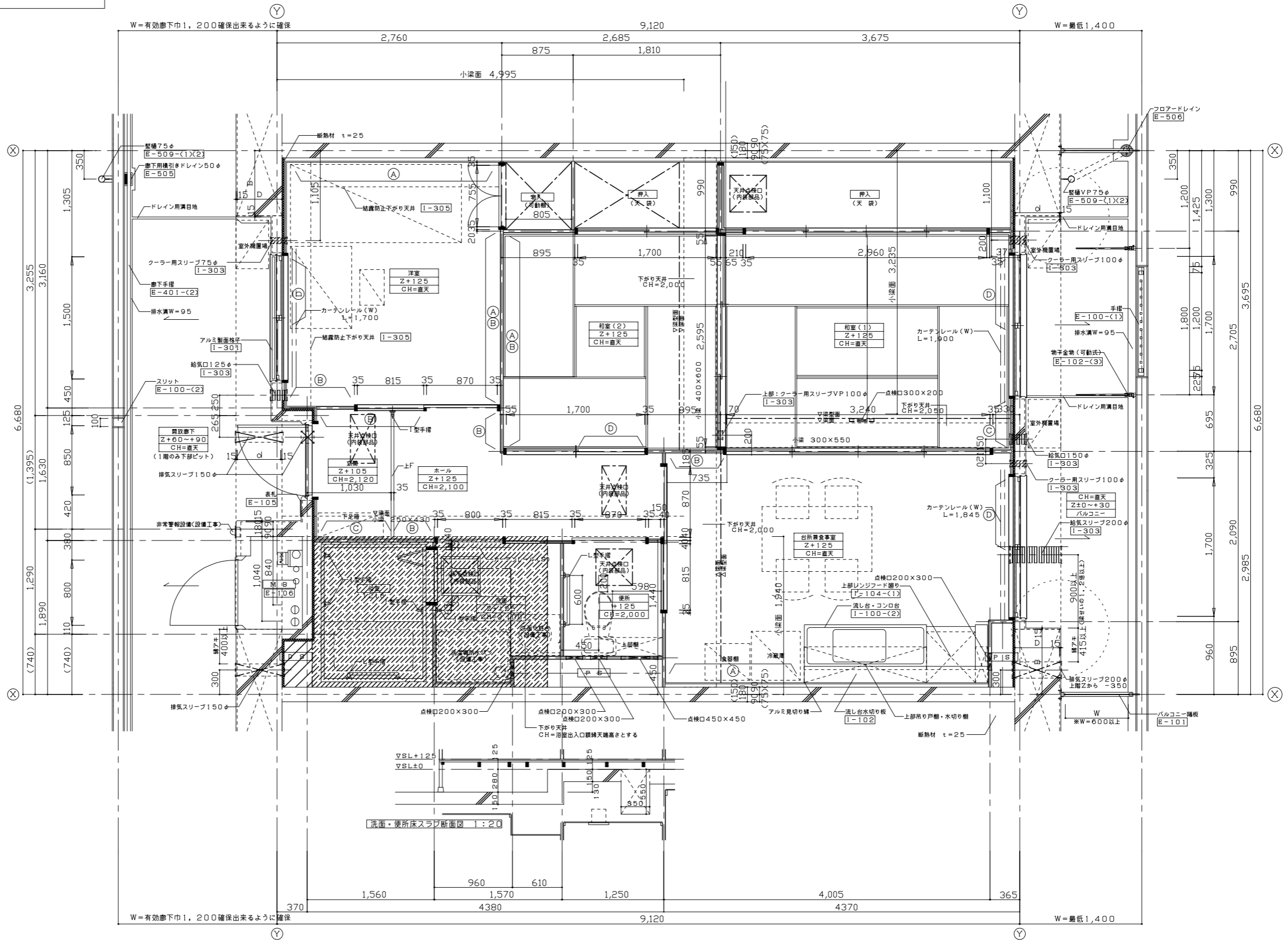
特記事項

- 1) 外壁及び直接外壁面に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む事。
- 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・整頓の位置については平面図参照のこと。
- 3) 特記なき限り、床下点検口は450×450、天井点検口は450×450とする(内装部品)。
- 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。( )寸法は構造による。
- 5) \*印は各メーカー仕様の寸法による。
- 6) 結露防止下がり天井は北側居室の北側壁面に設けること。  
裏面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。

※設計上の留意事項

- ( )内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
  - 階高は、Zレベルから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。
  - 1階一般住戸は、MAIハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
  - 家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
  - 排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
  - パネル部分壁厚は、合板仕様の場合も40、PB仕様の場合も50(標準図は40)であるので注意すること。
- ※階高は2,750を基準とする。

添付図8 標準平面詳細図(3DK)



凡例

- 排気スリーブ
  - 給気口
  - 給気スリーブ(ダクト有り)
  - 部分スラブ天Z+280
  - E-番号 大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。
  - I-番号 部分詳細図番号を示す。
  - クーラー用スリーブ
  - 電気スリーブ
  - 部分スラブ天Z+60
- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| (A) 転倒防止付欄干            | (D) エアコン取付用下地補強 |
| (B) 将来手摺下地補強           |                 |
| (C) 麗高家具等転倒防止金具取付用下地補強 |                 |

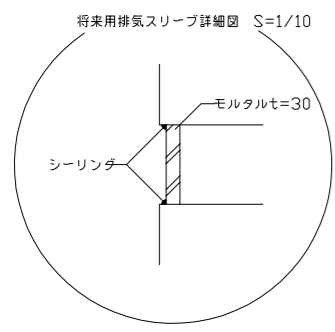
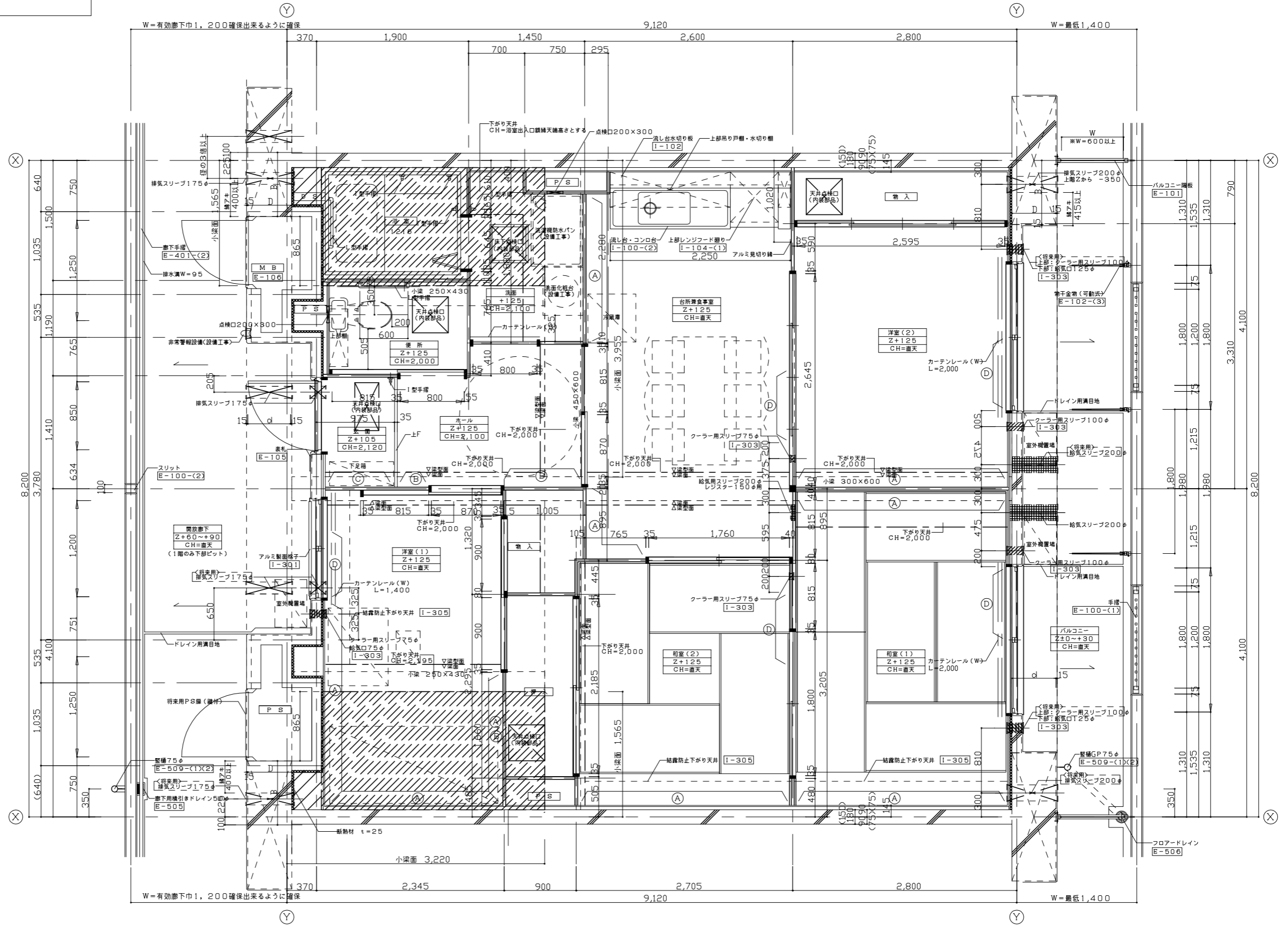
特記事項

- 1) 外壁及び直接外壁面に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む事。
- 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・堅積の位置については平面図参照のこと。
- 3) 特記なき限り、床下点検口は450×450、天井点検口は450×450とする(内装部品)。
- 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。< >寸法は構造による。
- 5) \*印は各メーカー仕様の寸法による。
- 6) 結露防止下がり天井は北側居室の北側壁面に設けること。  
裏面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。

※設計上の留意事項

- ・< >内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
  - ・階高は、Zレベルから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。
  - ・1階一般住戸は、MAIハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
  - ・家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
  - ・排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
  - ・パネル部分壁厚は、合板仕様の場合t40、PB仕様の場合t50(標準図はt40)であるので注意すること。
- ※階高は2,750を基準とする。

添付図8 標準平面詳細図(4DK)



凡例

	排気スリーブ		クーラー用スリーブ
	給気口		電気スリーブ
	給気スリーブ(ダクト有り)		
	部分はスラブ天Z+280		部分はスラブ天Z+60
	大阪府営住宅標準詳細設計番号を示す。		
	部分詳細図番号を示す。		
	室名		
	床高さ(F.L.)		
	天井高さ		

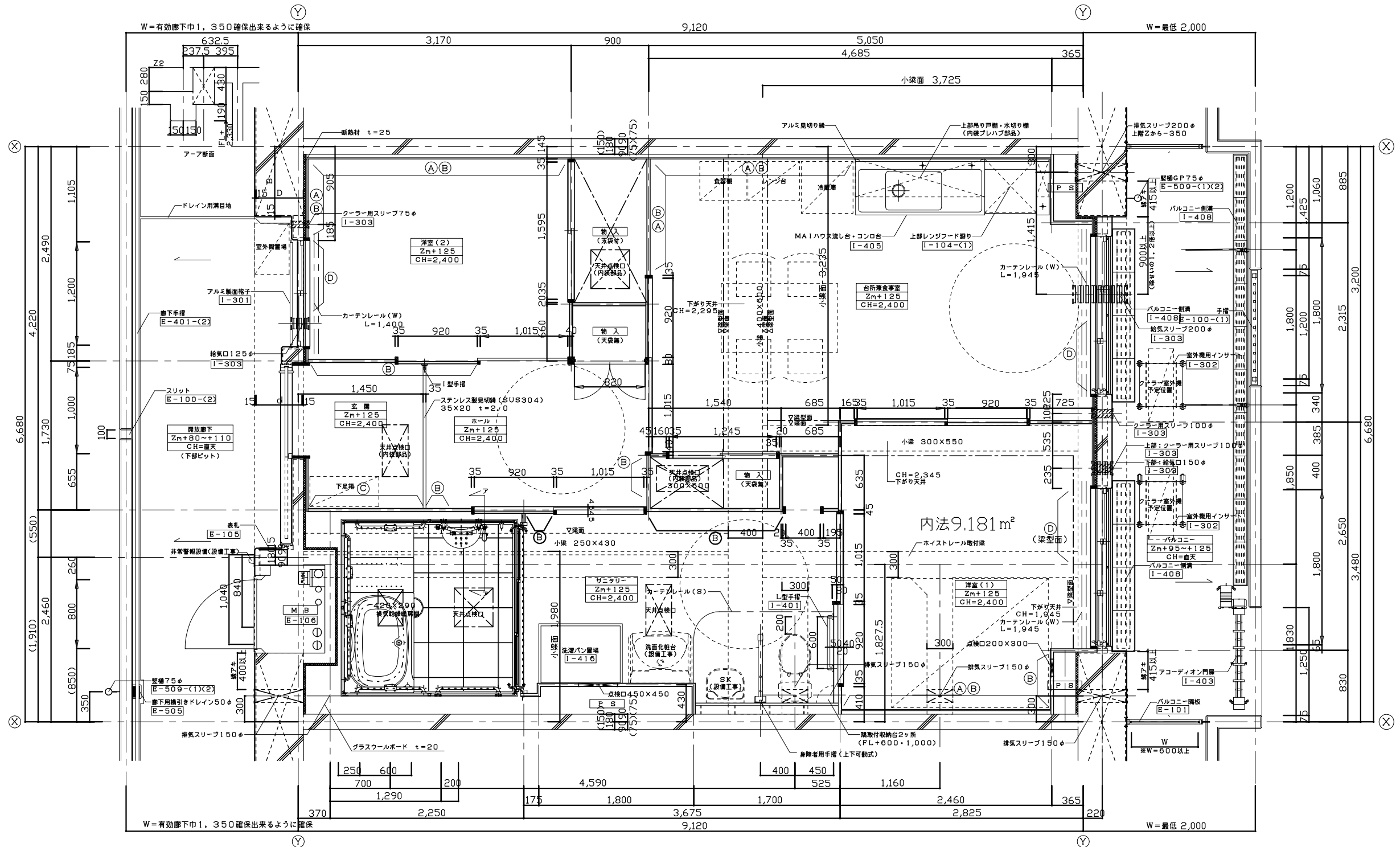
	転倒防止付欄
	将来手摺下地補強
	慶高家具等転落防止金具取付下地補強
	エアコン取付下地補強

特記事項

- 1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む事。
- 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・整頓の位置については平面図参照のこと。
- 3) 特記なき限り、床下点検口は450×450、天井点検口は450×450とする(内装部品)。
- 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。< >寸法は構造による。
- 5) \*印は各メーカー仕様の寸法による。
- 6) 結露防止下がり天井は北側居室の北側壁面に設けること。裏面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。
- 7) <将来用>クーラー、給気スリーブについては、外部はキャップ付、内部はパネル貼りとし開口は躯体のみとする。<将来用>排気スリーブについては、モルタル詰めとする。

- ※設計上の留意事項
- ・ < >内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
  - ・ 階高は、Zレベルから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。
  - ・ 1階一般住戸は、MAIハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
  - ・ 家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
  - ・ 排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
  - ・ パネル部分壁厚は、合板仕様の場合t40、PB仕様の場合t50(標準図はt40)であるので注意すること。
- ※階高は2,750を基準とする。

添付図8 標準平面詳細図(2DK-MAI)



凡例

- 排気スリーブ
  - 給気口
  - 給気スリーブ(ダクト有り)
  - 部分はスラブ天SL-280
  - E-番号 大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。
  - I-番号 部分詳細図番号を示す。
  - クーラー用スリーブ
  - 電気スリーブ
  - 部分はスラブ天Z+60
- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| (A) 転倒防止付欄干            | (D) エアコン取付用下地補強 |
| (B) 将来手摺下地補強           |                 |
| (C) 腰高家具等転倒防止金具取付用下地補強 |                 |
- |         |  |
|---------|--|
| 室名      |  |
| 床高さ(FL) |  |
| 天井高さ    |  |

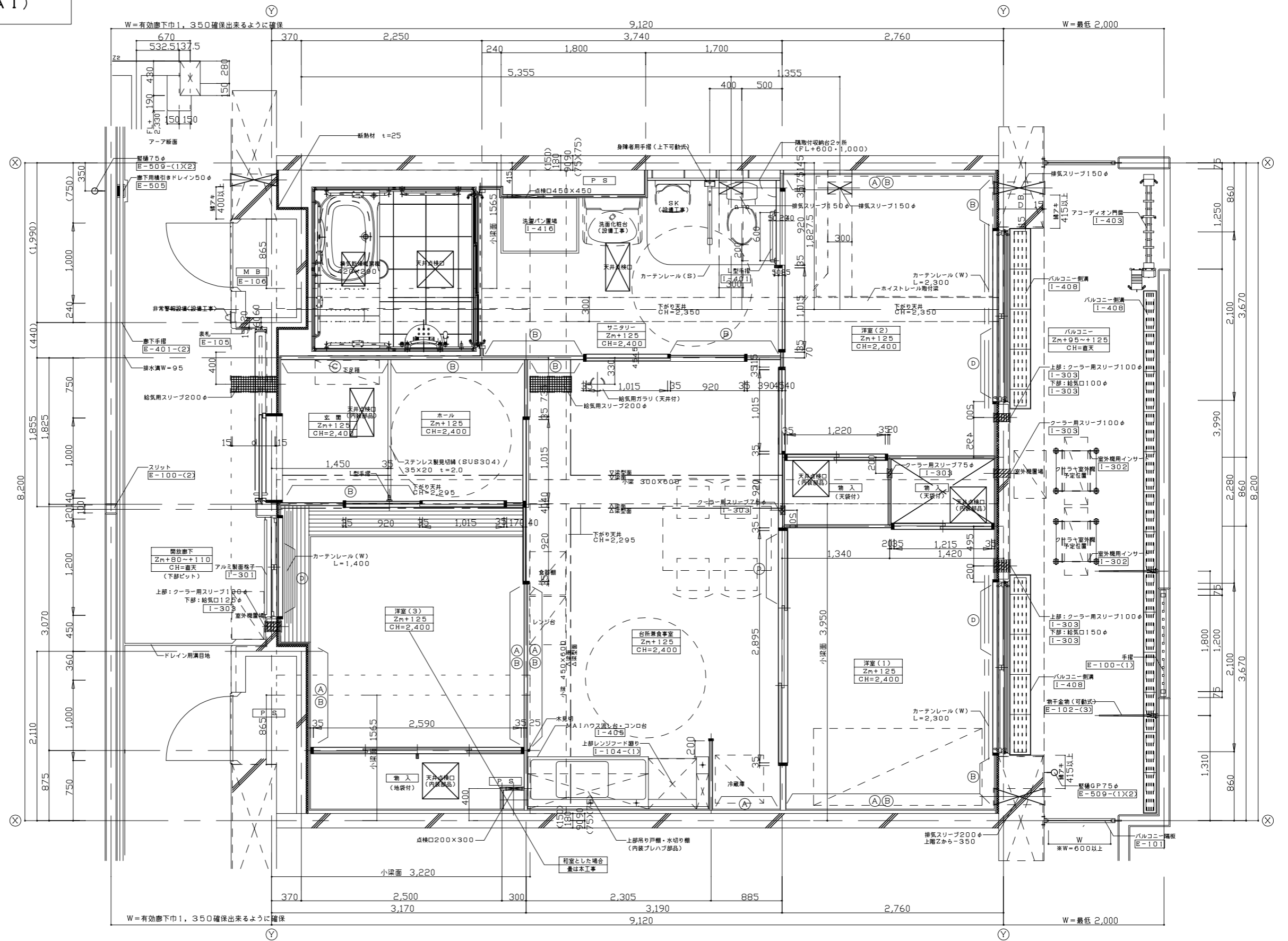
特記事項

- 1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む事。
- 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・整積の位置については平面図参照のこと。
- 3) 特記なき限り、床下点検口は450×450、天井点検口は450×450とする(内装部品)。
- 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。( )寸法は構造による。
- 5) \*印は各メーカー仕様の寸法による。
- 6) 結露防止下がり天井は北側居室の北側壁面に設けること。  
裏面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。
- 7) 台所を裏壁側に設けること。

※設計上の留意事項

- ( )内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
  - 階高は、Zレベルから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。
  - 1階一般住戸は、MAIハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
  - 家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
  - 排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
  - パネル部分壁厚は、合板仕様の場合も40、PB仕様の場合も50(標準図は40)であるので注意すること。
- ※階高は2,750を基準とする。

添付図8 標準平面詳細図(3DK-MAI)



凡例

- 排気スリーブ
  - クーラー用スリーブ
  - 給気口
  - 電気スリーブ
  - 給気スリーブ(ダクト有り)
  - 部分はスラブ天Z+280
  - 部分はスラブ天Z+60
  - E-番号 大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。
  - I-番号 部分詳細図番号を示す。
- |         |                   |
|---------|-------------------|
| 室名      | 転倒防止付欄柵           |
| 床高さ(FL) | 将来手摺下地補強          |
| 天井高さ    | 麗高家具等転倒防止金具取付下地補強 |
|         | エアコン取付下地補強        |

特記事項

- 1) 外壁及び直接外壁面に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JISA9511)厚さ25mmを躯体に打ち込む事。
- 2) 共用廊下、バルコニーのドレイン・壁鑿の位置については平面図参照のこと。
- 3) 特記なき限り、床下点検口は口450×450、天井点検口は口450×450とする(内装部品)。
- 4) D・B寸法は柱巾、d寸法は梁巾を示す(構造図による)。( )寸法は構造による。
- 5) \*印は各メーカー仕様の寸法による。
- 6) 結露防止下がり天井は北側居室の北側壁面に設けること。裏面の結露防止下がり天井については、外壁面等(外壁面、EVホールや住居以外の室等に接する面)の場合に設けること。
- 7) 台所を妻壁側に設けること。
- 8) 洋室(3)の板張りは、和室仕様になった場合のみとする。

※設計上の留意事項

- ( )内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
  - 階高は、Zレベルから大梁構造寸法下、H=2,000を確保すること。
  - 1階一般住戸は、MAIハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
  - 家具(食卓、食器等)、冷蔵庫は設計時削除のこと。
  - 排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
  - パネル部分壁厚は、合板仕様の場合も40、PB仕様の場合も50(標準図は40)であるので注意すること。
- ※階高は2,750を基準とする。